

「DOG TALE 犬の話 紹介文」

岡和田晃

このフルカラーPDFファイルは、仲知喜と蔵原大の合作小説「DOG TALE 犬の話」を収録したものである。

蔵原大と齋藤路恵の合作「衛星タイタンのある朝」の後日譚という位置づけにある（だから推奨設定のファイアウォールものではない）。同作を読まれた後に本作へあたることをお勧めしたい。

ハーラン・エリスンの「少年と犬」やパオロ・バチガルピの「砂と灰の人々」のように、「犬」を題材としたSFはシリアスな作品が多い印象がある。だから本作のようなコミカルな「いい話」は珍しいかもしれない。

ちなみに本作に登場するアルアミラルもまた、『エクリップス・フェイズ』のルールに則って創造された人物である。

この作品の初出は2011年6月に限定発行されたファンジン『Eclipse Phase Introduction Book For 2011 Japanese』（AnaLog Game Studies & 戦鎚傭兵団制作）に収

録されたものである。本作の末尾には用語集が収められている。もとはファンジンに収録された他の小説（例えば「衛星タイタンのある朝」）を読む手がかりとしていた。ただために作成されたものだが、他の作品を読む参考にもなるので今回も併載した。小説と用語集には、「SF Prologue Wave」に再掲されるにあたって修正が加えられている。

本作のメイン執筆者である仲知喜は『ハーンワールド／ハーンマスター』や『HARP』といったハイ・ファンタジーの世界を舞台にしたロールプレイングゲームの翻訳と紹介に携わってきた。海外ヒロイックファンタジーの大ファンであるが、チャイナ・ミエヴイル作品をはじめ、SFへの造詣も深い。ファンジン発行後、『エクリプス・フェイズ』翻訳チームに加入した。